

トンボ目アオイトトンボ科

オツネントンボ

Sympecma paedisca (Brauer, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵15

【選定理由】

県内の分布が局限される。また過去に発見された産地のほとんどが絶滅状態である。

【概要】

全長35－41mm。全身淡褐色をした地味な色調のイトトンボ。未熟なホソミオツネントンボとよく似るが、閉じた翅の緑紋が重ならないことで区別できる。初夏に羽化した個体はそのまま林縁などで生活し、越冬を終えた翌春、生殖活動を行う。和名「オツネン（越年）」は、成虫で越冬することに由来する。ユーラシア大陸の北寄りに広く分布し、国内では北海道、本州、四国、九州北部に分布するが、西日本ではまれとなる。

【県内での生息地域・生息環境】

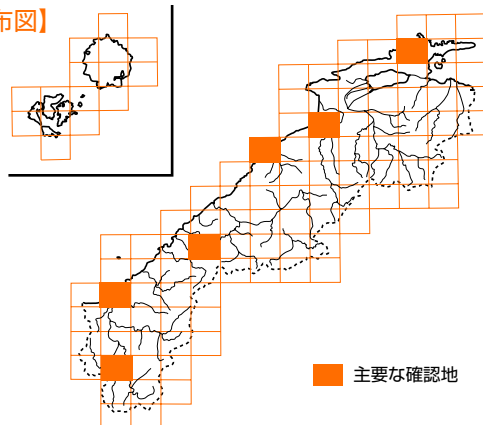
隠岐諸島を除き沿岸部から内陸部まで広く分布するが産地は局限される。生息地はいずれも日当たりのよい植生豊かな溜池である。なお県内で越冬の様子は観察されていない。

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○					○				

【存続を脅かす原因】

池の水質悪化や産卵場所となる抽水植物の除去。成虫の生活場所となる林の消失。

【分布図】



トンボ目モノサシトンボ科

グンバイトンボ

Platynemis foliacea sasakii Asahina, 1949

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵15

【選定理由】

小規模で清澄な緩流に生息し、県内の産地はおもに江の川・高津川水系各々に数カ所程度。

【概要】

全長37－41mm。オスの中・後肢の一部は顕著な偏平形で白い米粒のように見える。メスでは、しばしば同所的に生息するモノサシトンボと似ており、識別には注意が必要。平野部から低山地の、水生植物の繁茂する緩やかな清流が代表的な生息環境。中国北部に原名亜種が分布し、国内では関東以西に分布する。特殊な生息環境のためか産地は全国的に局限され特に関東地方では近年急速に生息地が失われている。

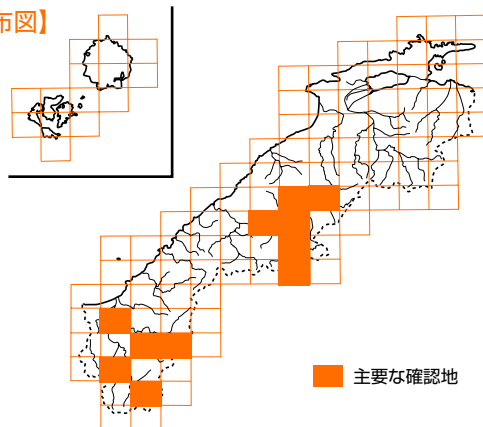
【県内での生息地域・生息環境】

今まで分布が江の川水系と高津川水系に限られていたが、近年、神戸川水系からも発見された。小規模な緩流のほか、常にきれいな水の流入が認められる溜池や砂防ダムの堆砂池等、止水的環境での生息も確認されている。

【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息地の埋め立て。湧水等の流入経路の分断。成虫の休息及び摂食場所となる雑木林の伐採。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○												○							○				

トンボ目イトトンボ科

ベニイトトンボ

Ceragrion nipponicum Asahina, 1967

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

2007年に県内で初記録されたが、産地は益田市周辺と県中部地域の数カ所に局限される。

【概要】

全長32－45mm。オスは腹部を中心に全身が鮮やかな朱色でメスでは幾分淡色となる。モートンイトトンボ、アジイトトンボ、アオモンイトトンボのメスも未熟時には朱色であるが、本種と異なり成熟に伴い緑色から褐色に変わる。平野部から低山地にかけての、植生豊かな池沼が代表的な生息環境で、益田市では6～9月まで成虫が確認されている。国内では宮城県以南に分布するが産地はかなり局地的である。

【県内での生息地域・生息環境】

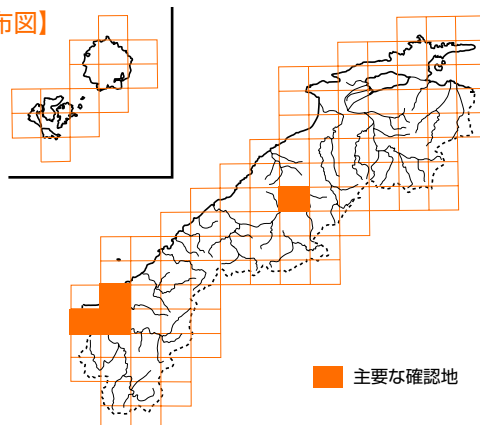
分布が県中部・西部の数カ所に限られ、東部からは未発見。益田市周辺における2007～2009年の調査では7カ所の農業用溜池等で確認されたが、多産した初記録地の益田市飯田町の溜池では改修により既に生息が途絶えて

おり、良好な生息地の保全が急務である。

【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息する池沼の埋め立て等。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○										○					○				

トンボ目ヤンマ科

ネアカヨシヤンマ

Aeschnophlebia anisoptera Selys, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

沿岸平野部の林縁に形成された湿地的環境に生息するが、分布が非常に限られるうえ、既知産地の消失が顕著。

【概要】

全長75－88mmの大型ヤンマで、黒みの強いずん胴な体形が特徴的。幼虫は日本産ヤンマ科で唯一背棘を有し、識別が容易。同属のアオヤンマが、溜池やクリークなど水深の比較的深い開放的な水域を好むのに対し、本種は水田や湿地等水深がほとんどなく、一方を雑木林等に接するような半開放的環境を好む。初夏に羽化し未熟な個体は日中に林縁部をゆったりと摂食飛翔する。成熟すると黄昏活動性が強くなる。産卵はおもに日中、湿地の湿土や朽木に行う。国内ではおもに関東以西の本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

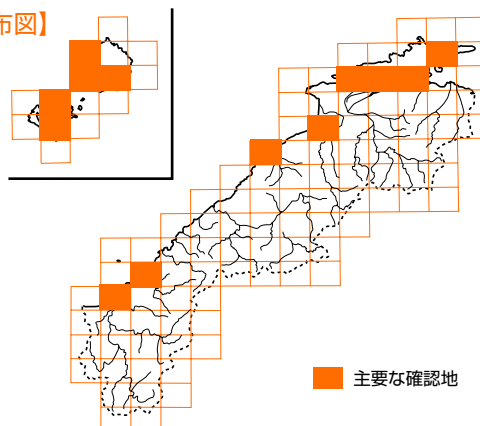
県全域に広く分布するが、生息地はいずれも沿岸部で内陸部からの記録はない。隠岐諸島では4島すべてに記

録がある。

【存続を脅かす原因】

造成、残土処理による湿地や放棄田の埋め立て。圃場整備による水田の乾燥化。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○												○		○				

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目サナエトンボ科

ナゴヤサナエ

Stylurus nagoyanus (Asahina, 1951)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

全国的に産地が限られる中、宍道湖を含めた斐伊川下流域は本種の多産地として有名であるが、以前に比べ個体数が明らかに減少している。

【概要】

全長59－65mm。夏に出現する中型のサナエトンボ。大きな河川の下流域全体を生活場所とする生活スケールの大きなトンボ。オスは流れの上をかなり長時間飛び続けメスを探す。日本特産種。

【県内での生息地域・生息環境】

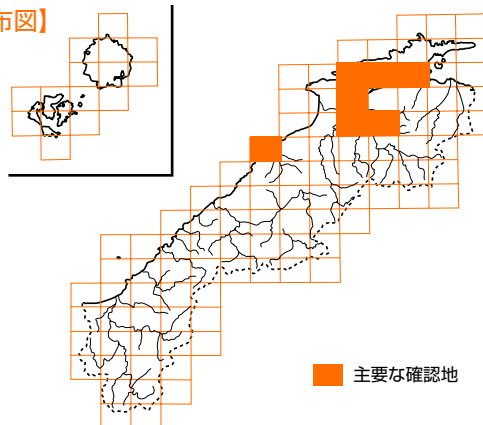
斐伊川および静間川下流域のほか、最近になって神戸川での生息が確認された。斐伊川では産み落とされた卵や孵化した幼虫のほとんどは流下し、宍道湖内で成長する。宍道湖岸での10年以上継続した羽化消長調査によれば、羽化は6月上旬から始まり、7月上旬をピークとして9月上旬まで続く。成虫の活動は羽化が観察される宍道湖岸ではまったく見ることができず、斐伊川河口部か

ら約30km上流までの斐伊川本川部で確認されている。

【存続を脅かす原因】

生息地周辺の開発による水質等河川環境悪化。成虫の休息場所となる河畔林等の伐採。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○															○	○				

トンボ目エゾトンボ科

ハネビロエゾトンボ

Somatochlora clavata Oguma, 1913

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内における過去の記録は、隠岐諸島の数カ所と本土側の3カ所だけであり、いずれの産地も、現在、生息が確認されていない。全国的にも減少傾向が著しく、新たに産地が発見された場合は、その保全が急務である。

【概要】

全長58－66mm。全身金属光沢がありエゾトンボに酷似するが、オスは尾部上付属器、メスは産卵弁が長く突き出ることによって区別できる。未熟な成虫は林間の開けた空間で摂食飛翔を行い、成熟すると水域に戻って一定の区間ホバリングを交えて縄張りを張る。産卵は岸近くの水面やコケ、礫の隙間に行く。早朝や夕方には谷筋などを摂食飛翔や黄昏飛翔もする。日本特産種。

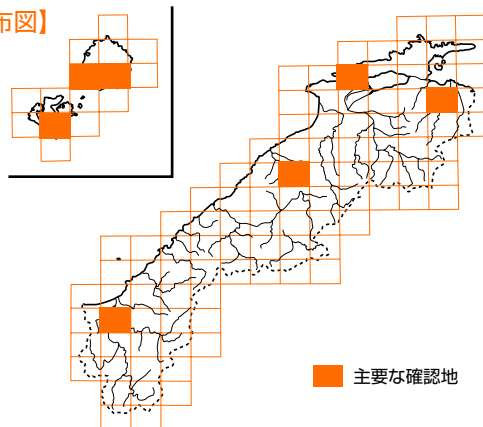
【県内での生息地域・生息環境】

近年、生息の情報が途絶えていたが、最近になって出雲市奥宇賀町で生息が確認された。本種の好む環境は林縁に接した緩やかな流れや湿地内を流れる細流である。

【存続を脅かす原因】

幼虫の生息場所となる水路のコンクリート化や水域の乾燥化。成虫の生活場所となる林の消失。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○											○							○				

トンボ目ヤマトンボ科

キイロヤマトンボ

Macromia daimoji Okumura, 1949

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

周辺に樹林があり河床が砂質系の河川中下流域に生息するため産地が局地的である。

【概要】

全長75－83mm。同属のコヤマトンボに似るが、成虫は腹部第3節側面の黄条が上下で分断されること、幼虫は下唇の形状や爪の長さで区別できる。未熟個体は周辺の開けた空間などで摂食飛翔を行い、成熟すると水域に戻ってくる。オスは早朝と夕方を中心に河川の広範囲をパトロールする。産卵は薄暗くなるころから始まり、流れの緩やかな砂地の場所を不規則に飛翔しながら間欠的に打水を行う。国内では関東地方以西の本州、四国、九州に分布するが、産地は局地的で減少している地域も少なくない。

【県内での生息地域・生息環境】

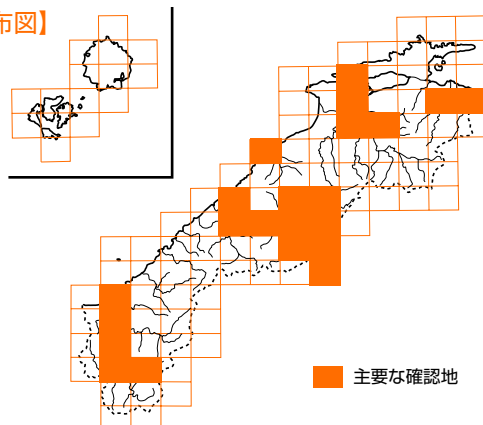
県内では斐伊川水系の中下流に広く分布しているが、最近になって県中・西部の江の川、高津川での生息が確

認された。隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

河川改修等による河床の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域									
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○										○						○							

トンボ目トンボ科

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea Rambur, 1842

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

湿地を代表する種であるが、造成等による埋め立てや植生遷移による乾燥化のため生息地の減少傾向が顕著。

【概要】

全長17－21mm。世界でもっとも小さいトンボの一つで一円玉ほどの大きさ。オスは成熟すると全身が赤化し、メスでは黄色、褐色、黒のまだら模様となる。羽化は5月中旬ごろから始まり、しばらくすると未熟及び成熟個体が湿地に入り乱れて見られる。交尾時間は短く、交尾を解いたメスは単独で打水産卵を行う。オスの警護飛翔もしばしば見られる。東南アジアを中心に広く分布し、国内では本州以南に分布する。

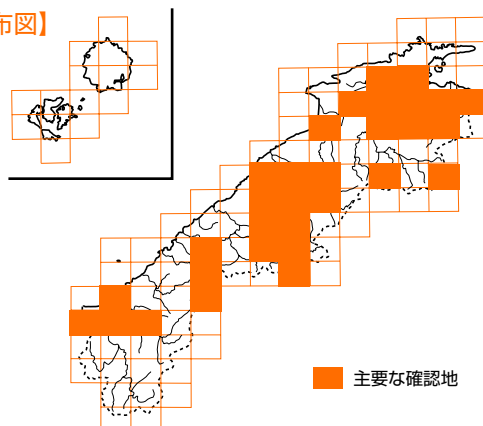
【県内での生息地域・生息環境】

低山地を中心に隠岐諸島を除く県全域に広く分布するが、産地は局地的。日当たりがよい浅い湿地を好む。休耕田で一時的に大発生し、マスコミを賑わすが、草原化により生息できなくなる場合が多い。

【存続を脅かす原因】

造成や残土処分等による生息地の埋め立てや、湿地の乾燥化、草原化。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草地	砂浜	河口	
○	○	○						○			○			○					

カメムシ目コオイムシ科

コオイムシ

Diplonychus japonicus Vuillefroy, 1864

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内では隠岐（島後）を含む各地で局所的に生息が確認されているのみであり、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

体長17－20mm前後。平野部の池や河川敷、水田、休耕田、湿地などの浅い止水域に生息している。成虫のオスが背中に卵を背負う習性がある。近縁種にオオコオイムシがいるが、本種はより小型で体色が薄く、前胸背板がより狭まるなどの特徴により、区別可能である。しかし、正確な同定にはオス交尾器の検討が必要である。国外ではシベリア、朝鮮半島、中国に分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。

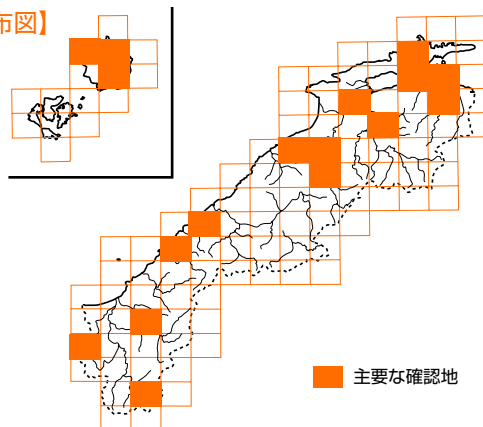
【県内での生息地域・生息環境】

県内では平野部を中心に生息しているが、まれに山間部にも生息地がある。近年の調査により、中海周辺に生息地が多いことが判明した。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○					○					○				

カメムシ目ハナカメムシ科

ズイムシハナカメムシ

Lyctocoris beneficus (Hiura, 1958)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

戦後の稲作農法の改変や殺虫剤の大量投入によって激減し、全国的に絶滅に瀕している。近年東部数カ所で生息が確認されたが個体数は少ない。

【概要】

体長4mm前後のカメムシのなかまで、黒褐色で光沢があり、微毛を散布する。この科の中では比較的大型である。野積みの稲わらや枯れ枝の間に生息し、鱗翅目幼虫の体液を吸収する。ズイムシとはイネの害虫として知られるニカメイチュウの幼虫。本種はこのガの天敵として知られていたが、このガ自体が有機塩素系殺虫剤によって絶滅状態にある。本州・四国・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

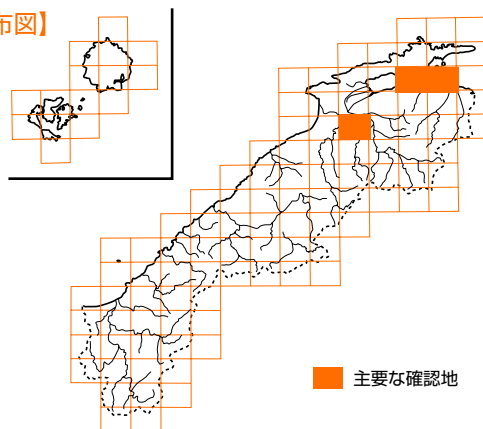
戦前には明確な記録がない。県東部で確認されているのは木次町から安来市にかけての斐伊川水系河川敷4カ所である。前述のように水田周辺では絶滅した可能性が高いが、河川敷のような場所でイネ科草本を寄主とする鱗翅目幼虫

によって個体群を維持しているものと考えられる。

【存続を脅かす原因】

河川敷などのイネ科草原の破壊や、殺虫剤散布、火入れなど。管理不足による遷移の進行。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○														○							

カメムシ目サシガメ科

ゴミアシナガサシガメ

Myiophanes tipulina Reuter, 1881

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

細長い大型のサシガメで、全国的に生息地が局限され絶滅状態にある。県内では1980年頃まで数カ所の記録があったが、それ以後の生息情報がない。

【概要】

体長17mm内外、淡褐色の地に濃淡の斑紋があり、長毛でおおわれる。脚、触角は細長く糸状で体長と同じかそれよりも長く、静止しているとガガンボのように見える。里山の林縁に生息し、家屋内外で発見されることも多く、小昆虫などを捕食する。山口県平生町では近年、築100年以上の古い家屋の便所で見ついている。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。

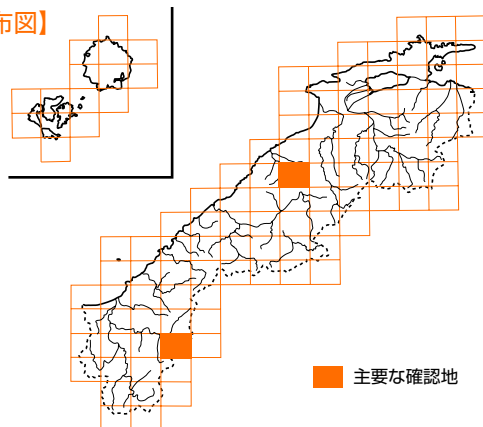
【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と益田市匹見町で古い記録がある。他県のように家屋を含む里山環境に適応した種のように、山里の崩壊とともに姿を消すとみられる。

【存続を脅かす原因】

山里の放置・無人化、住環境の近代化など。周辺の二次林の竹林化。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
	○	○						○											

カメムシ目セミ科

コエゾゼミ

Lyristes bihamatus (Motschulsky, 1861)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵17

【選定理由】

本県の東部山地が、本州における本種分布の西限となる。標高1,000m以上のブナ林に局限され、個体数も少ない。

【概要】

体長は31－37mmでオスがやや大きく、翅端までは47－56mmである。エゾゼミより小型で、前胸背後縁の黄褐色帯が外方の黒紋で切断される。色彩や斑紋には変異が多い。北海道・本州・四国、国外ではサハリン・千島に分布する北方系のセミであり、7～8月にブナ林に出現する。鳴き声はエゾゼミに似るがやや低く、細い。

【県内での生息地域・生息環境】

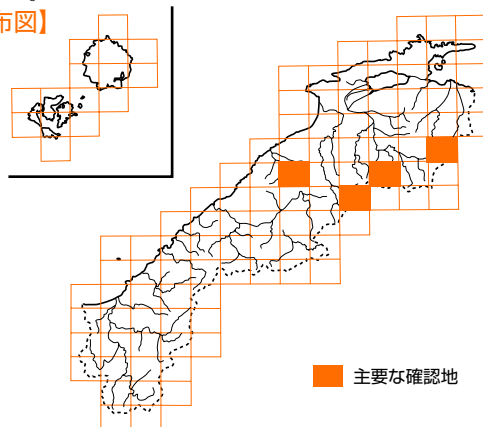
三瓶山および東部山地の標高1,000m以上の地点4カ所で記録されている。成虫は昼間はブナの梢上部で鳴いている。西部山地（旧・匹見町）において本種として記録されているのは県境を越えた広島県や山口県側で生息が確認されている同属のキュウシュウエゾゼミの可能性が

高い。

【存続を脅かす原因】

ブナ林の伐採や分断は、地域個体群の絶滅をもたらす。また、寒地系のセミであるので、地球温暖化の影響も無視できない。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○	○			○															

サイカチマダラキジラミ

Euphalerus robiniae (Shinji, 1938)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵17

【選定理由】

寄主植物のサイカチの生育地が県内では1カ所に限定されているため、本種の生息地も限定されている。

【概要】

体長2.0mm前後。胸部は全体に黒い。前翅には特徴的な黒い斑紋があり、翅脈上に黒い斑点がある。額錐は短く、触角は短い。ジャケツイバラキジラミに似ているが、小さく、前翅の斑紋が異なる。サイカチ（マメ科）を寄主し、幼虫は葉の縁を曲げた虫えい（虫こぶ）を形成する。新成虫は7月に出現する。

【県内での生息地域・生息環境】

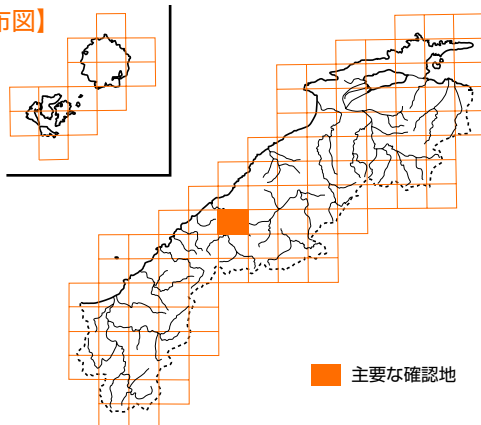
本種は寄主特異性が高いキジラミで、幼虫が成育できる寄主植物はサイカチのみである。県内の生息地は県中部のサイカチの生育地に限定されている。

【存続を脅かす原因】

サイカチ生育地の縮小や消滅。サイカチは「改訂しなねレッドデータブック2013植物編」において絶滅危惧Ⅰ

類に指定されている。

【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
	○						○												

ハマベゴミムシ

Pogonus japonicus Putzeys, 1875

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵17

【選定理由】

塩性湿地に生息する種であり、本種の生息できる環境が県内ではきわめて限定されている。日本海側での分布という点においても注目される。全国的な希少種でもある。

【概要】

体長6.5mm前後。背面はつやのある黒色だが、上翅の側方から翅端付近は茶褐色をしている。上翅の条溝は明瞭である。

塩田跡や海岸の埋め立て地などに形成した潮性湿地に生息する。夜行性で灯火に飛来する。同属のドウイロハマベゴミムシは同じような環境に生息する種であるが、県内では確認されていない。

日本固有種で本州、四国に分布する。中国地方では岡山県と山口県で記録され、それぞれの県のレッドデータブックに掲載されている。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の干拓地の牧場に生息している。同じ場所で塩性湿地に生息するオオツノハネカクシが確認されている。島根県内で同様な環境はほとんどなく、生息地が限定されている。本土側でも中海の埋め立て地や沿岸部の河口周辺などで、灯火による調査を行えば、生息を確認できる可能性はある。

【存続を脅かす原因】

塩性湿地の開発、生息地の塩分条件の変化。現状としては生息地の湿地は放牧地として管理され、状況は安定している。希少種が生息する塩性湿地としての価値が認められれば、本種の保全に繋がるのが期待される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
			○																

コガタノゲンゴロウ

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵 17

【選定理由】

県内では隠岐諸島や三瓶山、県東部など限られた場所で記録があった。しかし、2000年以降、県東部を中心に確認例が増えてきており、今後の動向を注視する必要がある。

【概要】

体長24－29mm前後。大型種のゲンゴロウと同様、前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黒色。水生植物の多い溜池や水路、水田などの止水域をおもな生息地としている。

本亜種は台湾、中国、朝鮮半島に分布する。国内では、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原に分布する。かつては日本各地でふつうに見られたようであるが、全国的に減少傾向が著しく各都道府県のレッドデータブックに掲載されている。しかしながら2000年以降、西日本では確認例が相次いで報告されており、状況が変化してきている。南西諸島では水田や水路などの生息地は減少して

いる。

【県内での生息地域・生息環境】

本種はもともと県内では少なかったらしく、1990年代以前の記録はわずかである。しかし、2000年以降、県東部や隠岐諸島などで散発的な記録が報告されるようになり、繁殖地も確認されている。条例による保全が行われている鳥取県の個体群、あるいは九州などで増えている個体群が分散し、島根県内で定着した可能性も考えられるが、現時点では個体群を見分ける手段がない。また、このまま増加するかどうかについても予想が難しい。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（外来魚など）の侵入・繁殖。過剰な採集。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○	○		○				○					○							

オキチビハネカクシ

Micropeplus okiensis Watanabe, 1990

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

隠岐（知夫里島）で発見され記載されたハネカクシの微小種で、その後、鳥取市で採集されたが、分布が限定されている。

【概要】

体長1.6－2.0mm前後の微小種。全体が黄褐色から褐色で光沢がない。1983年に隠岐（知夫里島）で初めて採集され、既知の6種とは頭部、鞘翅、腹部の構造やオスの交尾器の形態が大きく異なることから新種記載された。本種は、1991年に鳥取市でも採集されており、県内の本土側で発見される可能性がある。

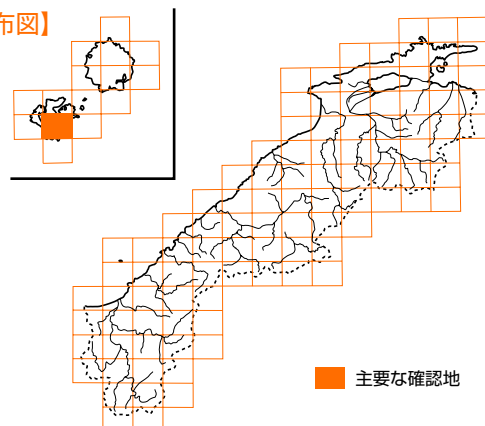
【県内での生息地域・生息環境】

本種は、県内では 知夫里島が唯一の既知産地である。林床下の腐葉土層に生息する微小種であるため発見し難く、特殊な採集法による調査が必要である。隠岐諸島でも知夫里島以外では発見されていないが、県内の社寺林など生息の可能性がある場所での調査が必要である。

【存続を脅かす原因】

生態等が明らかでなく不明であるが、自然度の高い森林、社寺林などの消失。

【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
			○															○	

オオツノハネカクシ

Bledius salsus Miyatake, 1963

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

写真 口絵17

【選定理由】

塩性湿地に生息する種であり、本種の生息できる環境が県内ではきわめて限定されている。日本海側での分布という点においても注目される。

【概要】

体長6.2－7.3mm。雄の頭部に2本の突起があるほか、前胸背板に1本の長い角状突起がある。雌にはこの突起がない。

塩田跡や海岸の埋め立て地などに形成した潮性湿地に生息する。夜行性で灯火に飛来する。塩田に無数の穴を掘ることから、かつては害虫とされていた。

日本固有種で本州、四国に分布する。中国地方では岡山県と山口県で記録され、それぞれの県のレッドデータブックに掲載されている。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の干拓地の牧場に生息している。同じ場所で塩性湿地に生息するハマベゴミムシが確認されている。

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	塩湿地
			○																			○

アオハナムグリ島前亜種

Cetonia (Eucelonia) roelofsi iijimai K. Sakai, 1996

島根県：絶滅危Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：隠岐島前固有亜種

環境省：－

写真 口絵17

【選定理由】

隠岐（島前）に生息する藍黒色のアオハナムグリで、島後には緑色の原名亜種が分布し、島前と島後で亜種が異なる初めての例である。近年個体数の減少が著しい。

【概要】

アオハナムグリは体長16－19mm前後。南西諸島を除く各地に分布し、背面は緑色で変異は少ないが、五島列島と種子島に分布するものは赤色を呈し別亜種とされている。隠岐（島前）の個体群は、背面が藍黒色を呈し、他の地域とは異なっている。

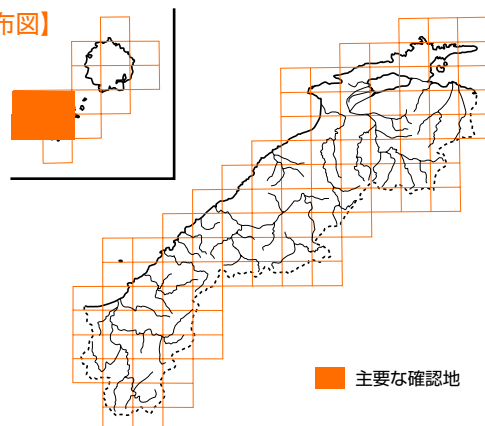
【県内での生息地域・生息環境】

本亜種は島前の3島にのみに分布し、島後は背面が緑色の原名亜種である。1994年に西ノ島で初めて藍黒色の1オスが採集され、翌年に採集された個体すべてが藍黒色であったため新亜種として記載された。成虫は6月ごろ出現しクリなどの花にくる。近年は個体数の減少が著しい。

【存続を脅かす原因】

生態等が明らかでなく不明であるが、幼虫の食餌とされる倒木・朽木の減少。珍種とされ採集圧もある。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
			◎																		○				

ツヤネクイハムシ

Donacia nitidior (Nakane, 1963)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

湿地に生息する甲虫で、県内における生息地は2カ所のみが知られている。

【概要】

体長5.0～6.5mm。背面は銅色または青色で金属光沢がある。肢は短く、腿節の基部は赤褐色。前胸背板は粗く点刻される。上翅間室は密な横シワがあるが、浅い。陰茎先端部のくびれは浅く、先端に小さな突起がある。骨片の中央突起は太短く、下方に向かって曲がる。カツラネクイハムシに似ているが、本種の複眼が小さいことで区別できる。成虫は5～6月に出現し、スゲ類に訪花する。生息環境は一般には日当たりの良い湿地である。

日本固有種で本州と佐渡に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

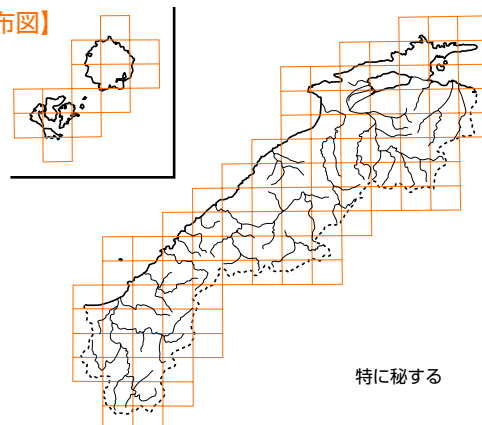
県中部と西部の湿地に生息している。今後、中国山地の小規模な湿地において生息が確認される可能性はあるが、島根県側の地形は一般に急峻であり、広島県側と比

べると湿地そのものが少ない。

【存続を脅かす原因】

湿地の自然遷移。林道等の開発。県東部の湿地は保全されており、生息環境としては安定した状態にある。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
	○	○						○																

ニッポンハナダカバチ

Bembix nipponica F. Smith, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

典型的な海浜性のカリバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度が激減している。日本固有種。

【概要】

体長は雌雄間で差がなく、18mm前後の大型のカリバチである。体色は全体的に淡黄色で、胸部は黒色、腹部の各背板後縁には黒色の横縞がある。名前は、顔面の縦中央部が突起していることに由来する。海浜では風による砂の移動の少ない場所、すなわち松が疎らに生育する防風林内や民家の庭先などの日当たりのよい場所を好んで集団営巣する。育房は、緩やかに傾斜して穿孔された主坑（深さ約15～20mm）から分岐した側坑に水平方向に連結される。営巣地では、オスがメスを求めて翅音高く迅速にパトロールを行う。幼虫餌として、ハナアブ科をはじめとするさまざまな分類群のハエ類の成虫を狩る。卵は、育房内で最初に貯蔵した獲物の腹面に産下される。

ふ化した幼虫は、親バチの随時給食で発育する。閉鎖された育房口は、給餌のつど閉鎖が繰り返される。年1化性で、活動期間は6月末から8月中旬までの1.5カ月間である。越冬は繭中で前蛹態で行う。国内での分布域は広く、北海道から屋久島まで及ぶ。同胞種のタイワンハナダカバチ *Bembix formosana* Bishoff が台湾と八重山諸島に分布する。

【県内での生息域・生息環境】

大社砂丘（出雲市）、静間神社（大田市）、三里ヶ丘（益田市）。生息環境は、いずれも海浜かその近辺。

【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

【特記事項】

海浜と類似した環境であれば、内陸でも営巣が見られる（京都銀閣寺の境内がその例）。

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
○	○	○																					○	

キバラハキリバチ

Megachile xanthothrix Yasumatsu et Hirashima, 1964

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度がきわめて低い。

【概要】

体長はメスが16－17mm、オスが15－16mm。大型のハキリバチである。胸・腹部の背面が橙黄色ないし黄褐色の毛で覆われている。希種のため、生態的知見がきわめて乏しい。年1化性で、活動期間は夏から初秋である。最近の大社砂丘での調査によると、初見日はオスが7月上旬、メスが7月下旬であった。広食性であるが、花粉を採集できる花資源は大型のマメ科植物に限定される。海浜では、ハマナタマメが主花資源植物と目される。山陰の海浜ではこの植物の生育はまれで、これが原因で生息密度が極端に低いのかも知れない。営巣は砂地に穿孔して行われるほか、アナバチの1種の放棄巣や野ネズミの旧坑なども利用する。アナバチの1種の細い旧坑を利用した巣では、巣の構造は筒類営巣性のハキリバチ類のそ

れと類似している。すなわち、複数の育房が直列に連続的に配置される。また、ほかのハキリバチ類と同様に、育房のカップは卵形葉片で、育房栓と入口栓はいずれも円形葉片で閉鎖される。越冬態は前蛹である。国内では、西南日本においていずれも少数個体が採集されている。国外では、中国北東部と韓国で分布が記録されている。

【県内での生息域・生息環境】

大社砂丘だけで、ここでの2年間の綿密な調査でヤマハギとハマゴウにおいて3オスと18メスが採集されているに過ぎない。

【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

【特記事項】

内陸でも河川敷で営巣が見られる。ここでは、クズが花資源植物として利用される。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○																			○

オオズグロメバエ

Archiconops niponensis (Vollenhoven, 1863)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内では、採集個体数がきわめて少ない 寄生性種である。

【概要】

体長はメスが13－16mm、オスが13－17mm。メバエ類のなかでは大型の美麗種である。雌雄は外形が酷似し、頭部は赤褐色、胸・腹部は灰色を呈している。メバエ類はすべて寄生性で、寄主として有剣類のハナバチ上科を中心に、スズメバチ上科、アナバチ科、ベッコウバチ上科が知られている。発達した口吻をもち、顕著な訪花性をもつ。生態がわかっているほかの種では、メバエ類は寄主のハチに抱きつきその腹部の背板間に産卵管を挿入して産卵するという。ふ化した幼虫は、最初は寄主の血リンパを体表から吸収するが、発育につれて寄主の腹部内蔵を食べ尽くして、ここに囲蛹を形成する。寄主は砂丘地に多産するツチバチ類らしく、ハマグルマやハマゴウの花上での待ち伏せと、寄主成虫の追撃がしばしば観察

されている。最近の大社砂丘における生態調査によると、活動期間は7月上旬から8月中旬で、寄主と推測されるツチバチ類の活動期とよく符合した。越冬は、土中で死亡した寄主腹部内で囲蛹態で行うと考えられる。性比は、ややオスに傾斜している。国内では、本州・九州から分布が記録されている。国外では、熱帯アフリカ・東南アジア・中国にも広く分布する。

【県内での生息域・生息環境】

松江市、出雲市の大社砂丘のほか、江の川（江津市）と高津川（益田市）の河川敷でも採集されている。

【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

【特記事項】

Archiconops erythrocephalus (Fabricius) とは別種であることが最近判明した。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○					○														○

チョウ目アゲハチョウ科

ギフチョウ

Luehdorfia japonica Leech, 1889

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内広く分布しているが、開発や環境の変化で個体数や生息地自体も減少傾向にある。

【概要】

翅長29－32mm。日本特産種。年1回3～4月に発生する。成虫には顕著な陽光性があり、早朝から日中にかけて樹影のある山頂部や尾根筋、伐採斜面などに集まって活動する。この集合と分散によって地域全体の個体群が維持されるという側面がある。卵はカンアオイ類の新芽裏面に10個程度にかためて産みつけられる。ミヤコアオイは浅い谷筋や薄暗い林中に多いが、産卵は林縁部のものに集中する。春は明るく、夏は薄暗くなるような季節的推移のはっきりした林床が生息域となる。

【県内での生息地域・生息環境】

本種の生息にもっとも適した環境は、雑木の疎林と藪や小川が混交する起伏に富んだ地形に適度に開けた空間、入り組んだ山裾の里山である。そのほかにも食草カ

ンアオイ類さえ生育していればブナ、カシ、スギ、マツ、タケなどさまざまな林縁環境で局所的にみられる。食草はミヤコアオイ、サンヨウアオイ、タイリンアオイ。それぞれの個体群が異なった分布成立要因をもつメタ個体群と考えられる。いずれの地域においても土地開発などにより産地が狭められつつある。生息地の全体像は把握できておらず、新産地の発見とその生息環境の実態を詳しく知ることが急務である。本種の記録がなくても、カンアオイ類の生育する土地の大規模な造成や伐採にあたっては、生息の可能性が高いので事前の調査が必要である。旧・赤来町女亀山で県条例により、松江市星上山・大田市大江高山では市条例によって保護されている。

【存続を脅かす原因】

大規模な土地開発、雑木林の手入れ不足による荒廃。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○	○	○		○				○					○						

チョウ目アゲハチョウ科

ジャコウアゲハ

Atrophaneura alcinous (Klug, 1836)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地が局地的で個体数も少ない。

【概要】

翅長46－58mm。山陰には食草がウマノスズクサ、マルバウマノスズクサの2種があり、前種は温帯から暖帯に広く分布しているが、山陰では局地的にしか見られないため、発生地も限られている。南西諸島では成虫が年周見られ、数も多いが、山陰では3化と思われる。飛翔はゆるやかで、アザミ、ネギボウズなど各種の草花で吸蜜する。吸水は確認されていない。卵から蛹まで特異な形をし、幼虫は共食いすることも知られている。蛹で越冬。ウマノスズクサ食のチョウは国内では本種しか生息していなかったが、近年同属のベニモンアゲハが八重山に土着し、またホソオチョウが人為的な放蝶により国内各地で繁殖している。

【県内での生息地域・生息環境】

ウマノスズクサは堤防などに多く見られる。マルバウ

マノスズクサは本県が南限で、局所的に分布している多年草のつる草。県内では斐伊川、神戸川、飯梨川、周布川の堤防で本種が発生しているが、飯梨川では河川改良で食草が消滅した。本種は時には大発生することがあり、大山（マルバウマノスズクサ）、飯梨川（ウマノスズクサ）のように食草を食べつくし姿を消すこともある。鳥取県米子市法勝寺川堤防のように、定期的な草刈をしている所では、大発生防止になり、数は少ないが長期間生息できる環境となっている。隠岐（西ノ島、マルバウマノスズクサ食）でも複数の採集記録があるが、40年近く再確認されておらず絶滅している可能性がある。

【存続を脅かす原因】

里山の荒廃。河川堤防の過度の草刈りによるウマノスズクサ生息地の破壊。ウマノスズクサを公園や墓地などに人工的に植栽して生息地を増やすことを考えたい。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○	○		△			○					○				○				

チョウ目シロチョウ科

スジボソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia nipponica Bollow, 1930

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵18

【選定理由】

1990年代より、産地・個体数とも減少傾向である。

【概要】

翅長30－35mm。翅の先端が尖っているのが特徴。6月に発生した成虫はヒメジョオン、オカトラノオなどの花で吸蜜する。オスはよく吸水にくる。また、翅を閉じたまま葉裏に止まる性質もある。盛夏時には夏眠をし、秋再び現われて活動、そのまま越冬する。翌年3月ごろ暖かい晴天の日に見られてクロウメドキ類の枝先に産卵するが、1本の木に3～40個の卵を見かけることもある。越冬後の成虫は翅が痛んでいる。

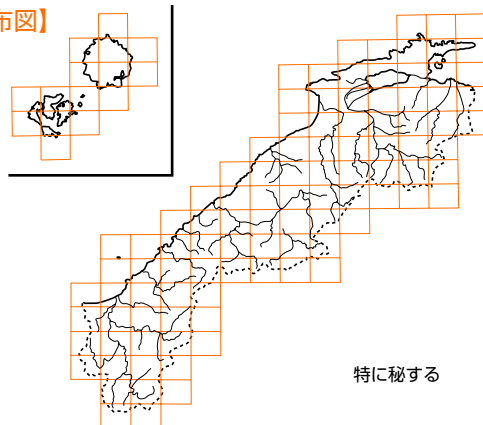
【県内での生息地域・生息環境】

匹見峡、松江市忌部、船通山、呑谷、三瓶山、三井野原などの林縁で見られるが減少が著しく近年はまれ。また、盛夏には高地のヒヨドリバナに吸蜜に来ていることがある。

【存続を脅かす原因】

クロウメドキを含む落葉樹林帯の伐採、雑木林の荒廃。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

チョウ目シジミチョウ科

カラスシジミ

Fixsenia w-album fentoni (Butler, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

写真 口絵18

【選定理由】

分布が限定され、個体数も激減してまれな種になってきた。

【概要】

翅長15－19mm。後翅裏面の白色条がW型になり、同属のミヤマカラスシジミと識別できる。北海道、本州、九州に分布し多産するところもある。食樹のハルニレがある落葉広葉樹林に見られる。年1回6月に発生、オスは夕方占有行動をし、三瓶山などではウツギなどで吸蜜するのを見ることができる。

【県内での生息地域・生息環境】

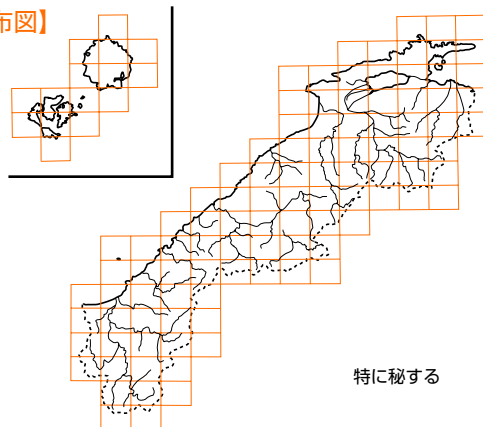
県内では西部、東部、隠岐諸島で記録があるが、開発などの伐採で絶滅していると思われるところもある。隠岐諸島は地理的変異をもつ独特の個体群が確認されているが、薬剤空中散布の影響を受け激減した。多産した三瓶山でも牧場拡張などでハルニレの大き木が伐採され大きな影響を受け、個体数は減少した。近年、奥出雲町、雲

南市でも発見されている。

【存続を脅かす原因】

ハルニレを含む落葉広葉樹林の伐採。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
	○	○	○	○					○															

チョウ目シジミチョウ科

ミヤマカラスシジミ

Fixsenia mera (Janson, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

1990年代より、産地・個体数とも減少傾向である。

【概要】

翅長16－18mm。山地性のチョウで、年1回6月下旬ごろより現われ、二次林や落葉樹林周辺の明るい場所を敏速に飛び回り、ヒメジョオンなどの花を訪れる。産卵は食樹クロウメモドキ類の枝にし、卵で越冬する。

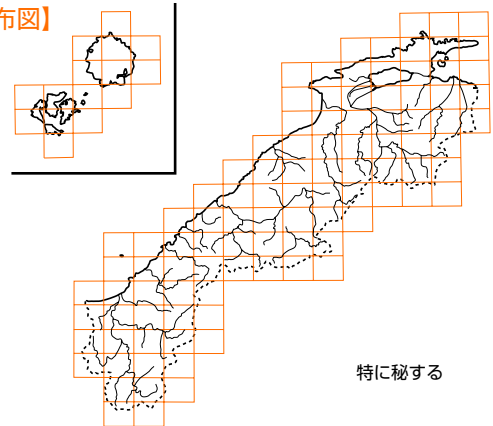
【県内での生息地域・生息環境】

食樹は落葉樹林帯の中に見られ、三瓶山、旧・匹見町、旧・横田町小八川などで記録がある。旧・横田町三井野原も良好な生息地であったが、1980年代には林が伐採され、さらにループ橋ができてからは生息環境が大きくかわり絶滅したと思われる。食樹が同じであるスジボソヤマキチョウともども減少が著しいのは、減少要因が同じだろうと推測される。

【存続を脅かす原因】

クロウメモドキを含む落葉樹林帯の伐採、荒廃。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

チョウ目シジミチョウ科

ウスイロオナガシジミ

Antigius butleri (Fenton, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵18

【選定理由】

生息地、個体数ともに減少している。

【概要】

翅長16－18mm。鳥取県大山のような高標高地ではミズナラ林で6月下旬ごろから7月中旬ごろに発生するが、県内の低山地では6月中旬ごろナラガシワに発生する。ウラジロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミのようにナラガシワのある程度まとまった林ばかりではなく、低山地の農道脇にポツリと点在する木にも少ないながら見られる。日中は葉陰に静止していることが多く、目立ちにくい種ではある。もともと少なかった種に思えるが、車の排ガスや遷移による影響も考えられ、昔は確認できた所も今では見られないところが多い。

【県内での生息地域・生息環境】

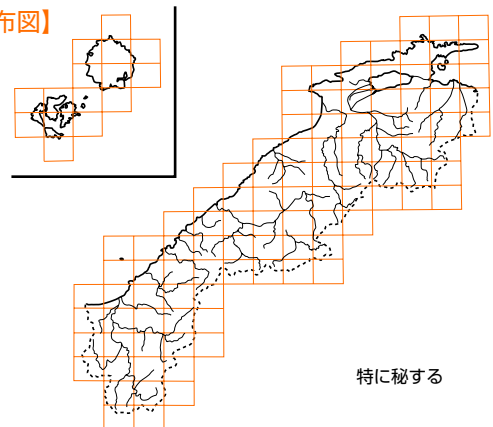
東部では2002年に低山地の農道脇の樹から確認できた所もあるが、樹が大きくなり枝が道路へ張り出せば伐採される恐れや、遷移進行で生息環境は決してよくない。

旧・木次町には毎年確認されているところも残されている。

【存続を脅かす原因】

食樹ナラガシワを含む雑木林の荒廃と伐採。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○					○															

オナガシジミ

Araragi enthea (Janson, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

写真 口絵18

【選定理由】

生息地、個体数とも減少している。

【概要】

翅長18mm前後。溪谷沿いに見られるオニグルミが食樹で、他のゼフィルスより少し遅れ7月中旬ごろ出現。昼間は葉陰で静止しているが、夕方になると食樹の梢を飛翔する。産卵は樹幹のシワ部分にするのを確認しているが、多くは休眠芽近くの枝で見られる。

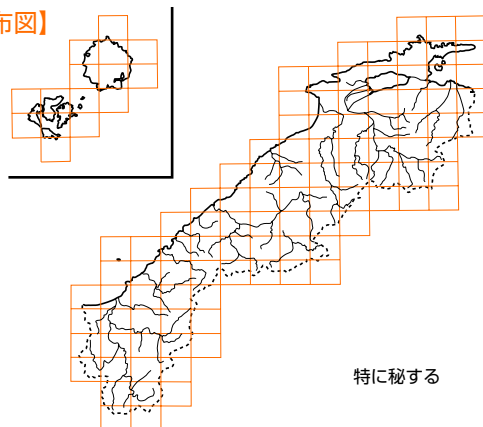
【県内での生息地域・生息環境】

オニグルミは湿った土地を好み、水分が少ないところでは成木しない。そのため溪流沿いに繁殖するが、三瓶山北の原での成木林は、地下に水分を多く含んでいる特殊な環境であろう。堰堤工事や林道改修などで伐採されたり、遷移が進行したりで、各地とも環境は決して良いとはいえず、現在では隠岐（島後）、奥出雲町などに散発的に見られるに過ぎない。また隠岐（島後）産は特異な個体群であり保全が必要である。

【存続を脅かす原因】

溪谷沿いの道路拡幅による食樹オニグルミの混じる落葉広葉樹林の伐採。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○	○		○	○		○													

ヒロオビミドリシジミ

Favonius latifasciatus (Shirôzu et Hayashi, 1959)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵19

【選定理由】

ナラガシワに依存しているため産地が限定され、個体数も減少傾向である。

【概要】

翅長22～24mm。中国地方のみに生息する。低山地に見られるナラガシワに依存。6月上旬から下旬ごろに発生するが、ある程度古木が存在する林に見られる。翅表が青緑色のミドリシジミ類の中では発生が早い。オスは晴天の日、朝10時ごろより活動を始め、昼ごろに一時活動が鈍くなり、2時ごろから再び活動する。追飛や円飛翔など激しく飛翔するが、メスは不活発で葉上にいることが多く、早朝には下草にも降りている。

【県内での生息地域・生息環境】

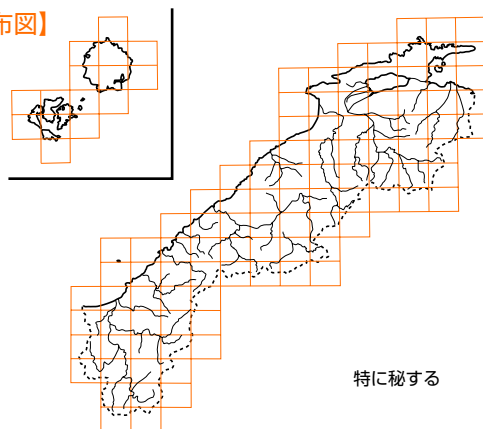
ナラガシワは県内の低山地に広範囲に点在するがごく小規模な林しかいないため、本種の生息密度は低く生息地も限られている。旧・匹見町、旧・六日市町、旧・瑞穂町、旧・邑智町、旧・頓原町、旧・横田町、旧・赤来町

などに記録がある。

【存続を脅かす原因】

ナラガシワはまったくの雑木として扱われるため伐採されやすく、保全が必要である。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地
○	○	○						○					○						

チョウ目シジミチョウ科

ミドリシジミ

Neozephyrus japonicus (Murray, 1875)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地が限定され個体数も減少傾向。

【概要】

翅長18－20mm。食樹ハンノキ、ヤマハンノキが自生する湿地に、6月下旬から7月中旬ごろ発生する。北海道から九州まで広く分布し、平地から山地まで見られるが、山陰では山地性となる。オスの翅表は金緑色、メスは黒褐色で、A、B、AB、Oと呼ばれる4型の色斑が現れる。発生地を離れることなく、昼間は葉上で静止していることが多いが、夕方には活発に活動する。

【県内での生息地域・生息環境】

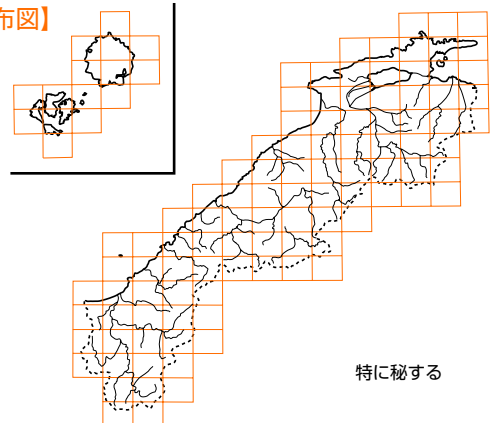
県東・西部の湿地帯に食樹が点在し、生息が確認されているが、規模は小さい。ハンノキ林があっても本種が見られない場所、小川沿いの1本の樹に発生していたがすでに姿を消した場所もある。湿地は埋立てや遷移で不安定でもあり、現在の状況からすると、今後長期間安定した発生は望めないようにも思われる。

生息地域				山地地域				里地地域						平野地域					海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○												○											

【存続を脅かす原因】

ハンノキの生える湿地の開発、埋め立て、乾燥化。谷沿いにある小湿地は産廃処分場として開発されつつある。

【分布図】



チョウ目タテハチョウ科

クモガタヒョウモン

Nephargynnis anadyomene ella (Bremer, 1864)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

分布は広いが極端に減少傾向にある。

【概要】

翅長30－41mm。他のヒョウモン類に先駆けて、平地では5月中旬ごろより出現する。低山地から山地まで広範囲に生息しているが、広い草原よりは雑木林周辺、谷筋にある明るい草地などで吸蜜しているのを見かけることが多い。比較的ゆるやかに飛ぶが、人には敏感で近づくとすぐ飛び立つ。やがて夏眠に入り姿を消し、秋再び現われて活動し産卵する。

【県内での生息地域・生息環境】

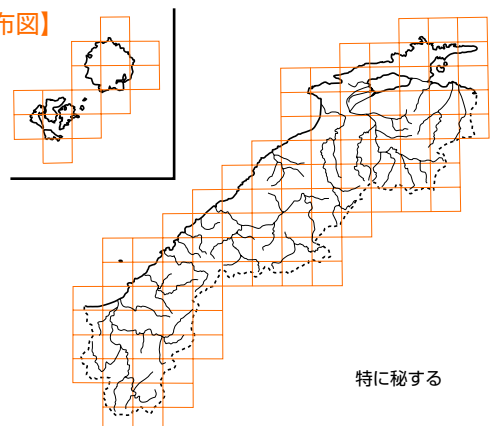
里山域を中心にして、県内全域（隠岐諸島・島根半島含む）に低密度で分布していたが、近年は目撃することさえ困難になってきた。以前の三瓶山では遊歩道沿いなどのウツギに集まるが多かった。不用意に雑木林を伐採せず、その林縁部を欠かさず手入れしていくなど、里山環境を保全していくことが望ましい。

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○					○						○								

【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。農薬の影響も考えられる。

【分布図】



チョウ目タテハチョウ科

メスグロヒョウモン

Damora sagana liane (Fruhstorfer, 1907)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵19

【選定理由】

1970年代には普通に見られたが、1990年代より減少傾向にある。

【概要】

翅長35－40mm。オスは他のヒョウモン類と似た色模様しているが、メスは地色が黒褐色でイチモンジチョウに似た色模様をし、別種のように見える。低山地の雑木林や二次林周辺に6月中旬ごろ現われ、各種の花を訪れたり、地上で吸水したりするが、盛夏には夏眠し秋再び現われ、木の幹など食草から離れた所に産卵、1令幼虫で越冬する。食草はスミレ類。

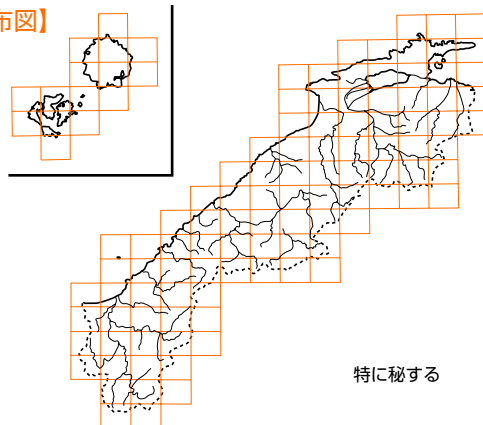
【県内での生息地域・生息環境】

低山地の雑木林の林縁などが主要生息地。ウツギ、クリ、ノアザミ、オカトラノオなどに訪花するのが観察されている。隠岐諸島でも以前のように多く見られることがない。秋季見られる越夏個体は人家周辺の草花で吸蜜するので発見されやすい。

【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○					○							

チョウ目タテハチョウ科

ミスジチョウ

Neptis philyra excellens Butler, 1878

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵19

【選定理由】

近年個体数が減少している。

【概要】

翅長31－37mm。古くは松江市内や郊外の社寺林にも見られたが、急速に姿を消し、現在では溪谷沿いにカエデがある落葉広葉樹林にまれに見られる程度である。しかし、発生にはカエデ林は必要なく、1本の大きな木があり、周囲の環境さえよければ発生源になる。年1回6月上旬に発生、樹冠を滑空するように飛翔、よく吸水のため地上に降りてくる。幼虫越冬するが、カエデの葉が落ちないように柄を枝と糸で綴っているため冬季には目に付きやすい。

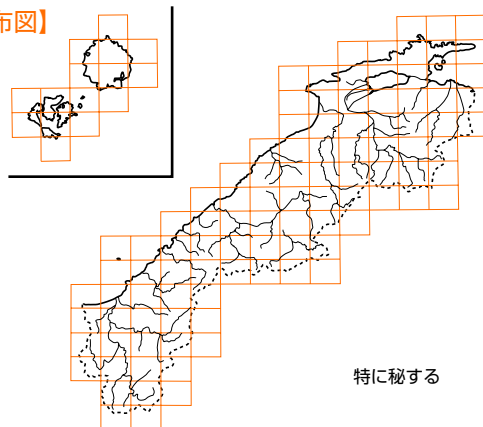
【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山、呑谷、匹見峡、大万木山などで確認されているが、どことも必ず見られる場所ではなく、カエデのある溪谷でも2～3年で幼虫さえも見られなくなることがある。

【存続を脅かす原因】

カエデの混じる自然度の高い落葉広葉樹林の伐採。林道のアスファルト舗装化。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○					○						○									

チョウ目タテハチョウ科

オオムラサキ

Sasakia charonda (Hewitson, 1863)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

近年著しく減少している。

【概要】

翅を開くと100mmを超すタテハチョウ最大の大きさで、飛翔も樹の周りを滑空旋回し力強く勇壮。オスの翅表には綺麗な紫色がありたいへん美しく、国蝶にも選ばれている。年1回6月下旬から7月に発生、オス、メス共にクヌギなどの樹液に集まる。幼虫はエノキ、エゾエノキを食し、落葉裏で越冬する。農山村の生活習慣の変化から里山が変貌し雑木林は著しく荒廃が進んだ。里山を代表するチョウ類が衰亡していく様相が本種の動向から垣間見える。

【県内での生息地域・生息環境】

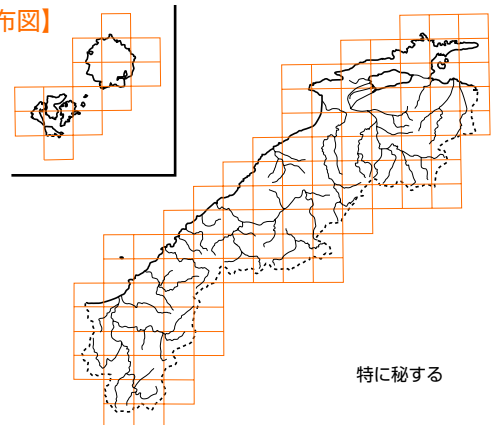
県内広く低密度で確認されているが、浜田市では開発、安来市のような自然林も樹液の出る樹が枯れるなど環境悪化が進んでいる。車の排ガスも影響が大きいと思われる。多産していた三瓶山でも少なくなってきた。

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○					○								

【存続を脅かす原因】

幼虫の食樹エノキ・エゾエノキ、成虫の蜜源クヌギ・アベマキを含む自然度の高い雑木林の伐採、手入れ不足、放置による荒廃。

【分布図】



チョウ目ジャノメチョウ科

ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種

Coenonympha oedippus arothius Okada et Torii, 1945

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

生息地が局限され、個体数も減少傾向である。

【概要】

翅長20～23mm。年1回6～7月に出現、翅裏面の眼状紋に特徴があり、地理的変異、個体変異が知られる。中部地方と中国地方の山陰側では高標高地の乾性草原に、東海地方と山陽地方では低標高地の湿性草原に見られるという特異な分布を示す。生息地では日あたりのよい草をゆるやかに飛翔し、オカトラノオなどの花を訪れる。

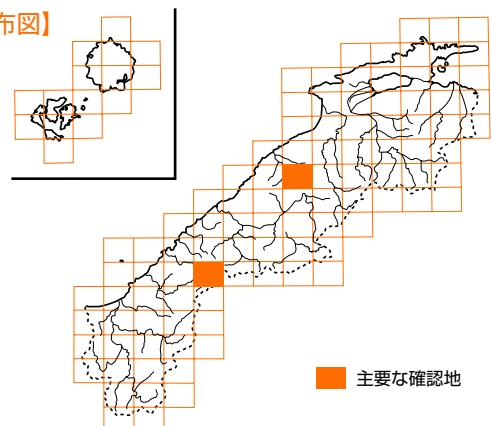
【県内での生息地域・生息環境】

雲月山と三瓶山の2カ所の乾性草原に生息する。雲月山では山頂近くの草地に多く見られたが激減した。三瓶山でも減少が激しく、西の原、北の原ではまれで、東の原で見られるに過ぎず、憂慮される事態になっている。県内での幼虫の食草は知られていないが、他県の例からイネ科であることは間違いない。

【存続を脅かす原因】

手入れ不足や過放牧による乾性草原の荒廃。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎				◎																

チョウ目セセリチョウ科

ギンイチモンジセセリ

Leptalina unicolor (Bremer et Grey, 1835)

【選定理由】

生息地が減り個体数も減少している。

【概要】

翅長15-16mm。翅の裏面にはみごとな銀線がある特異な模様で近似種はいない。北海道から九州まで広く分布するが、どことも個体数の減少傾向が見られる。本種は食草のススキ・オギがある明るい草地在生地になっているが、クズ、カナムグラのような繁殖力の強い植物が入り被り尽くすと姿を消す。5月と7-8月年2回発生し、草上を弱々しく飛び続け、葉に止まったり花で吸蜜したりする。また湿ったところでは吸水もし、時には集団にもなる。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部では斐伊川、西部では旧・三隅町、高津川など数カ所が産地として知られている。開発などで産地が破壊され絶滅しているところもある。遷移の進行など残された産地も環境が悪くなっている。米子市では高速道路

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

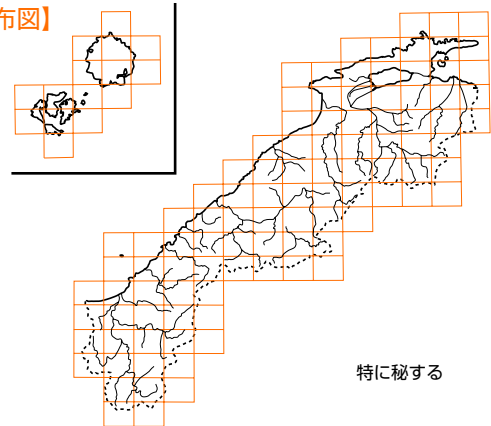
写真 口絵19

のり面で発生しているところがあり、県内でもそういう可能性はある。

【存続を脅かす原因】

手入れ不足による草地の荒廃。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					

チョウ目セセリチョウ科

スジグロチャバネセセリ

Thymelicus leoninus (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵20

【選定理由】

局所的で個体数も減少傾向である。

【概要】

翅長14mm前後。地色は赤橙色、翅脈が黒い線状になりその名がある。オスは斜状性標があるが、メスはヘリグロチャバネセセリに酷似し識別が困難。7-8月に発生、溪谷沿いの林縁の明るい草をゆるやかに飛び、訪花や吸水をする。葉に止まるときは前翅を立て、後翅を開くセセリチョウ独特の姿勢をとる。

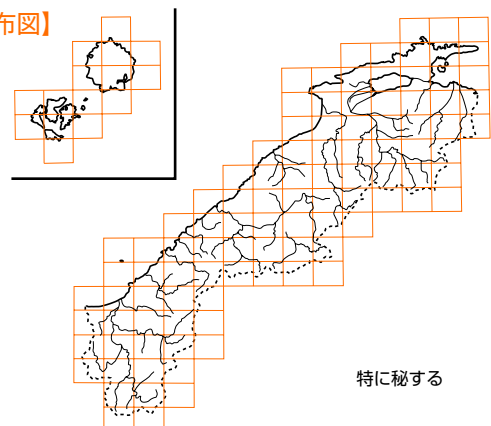
【県内での生息地域・生息環境】

県内では島根半島、船通山、立久恵峡、江の川流域、旧・頓原町などで確認されているが少ない。旧・仁多町呑谷は、年によって多産することもあるが、2013年は伐採後の山道が放置されて荒れて減少していた。近似種ヘリグロチャバネセセリが崖地の草付きに生息するのに対し、本種は谷沿いの林縁草地に多く、すみ分けをしている。

【存続を脅かす原因】

生息地の開発改修、自然遷移。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			△	△			△	△												

ミヤマチャバネセセリ

Pelopidas jansonis (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数とも著しい減少傾向が見られる。

【概要】

翅長16－21mm。本州（隠岐諸島を含む）、四国、九州に分布。チャバネセセリの仲間は、後翅裏面の白斑の並び方で種別を識別するが、後翅の中室に大きな白斑があるのは本種のみで識別は容易。年2回、5月ごろと7～8月に発生する。山地樹林周辺の草地を敏速に飛び回り、ノアザミ、ヒメジョオンなどの花に好んで吸蜜し、湿地で吸水もする。

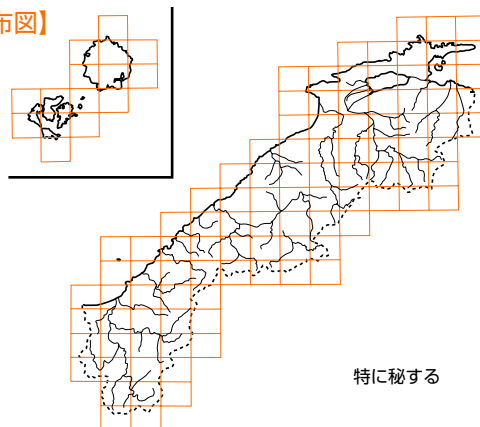
【県内での生息地域・生息環境】

以前は島根半島の山麓にも多かったが、近年減少傾向にある。隠岐（島後）でも最近の記録が少ない。三瓶山では比較的まだ多く見られる。採草地、牧場などの広い草原では見られない。

【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の草地の荒廃。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○				○	○														